



WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

2010～2011年度
国際ロータリーのテーマ
地域を育み、大陸をつなぐ
2010～2011年度
RI会長 レイ・クリンギンスミス

創会 立：1980年(昭和55年)11月10日
会 長：田中 隆義
幹 事：加納 裕
副 幹 事：梅村 昌孝
例 会 日：毎週木曜日 PM12:30～
会 場：ヒルトン名古屋

事務局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号
TEL：052-211-3803
FAX：052-211-2623
MAIL：2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL：http://www.mizuho-rc.jp/

第1508回例会

～ロータリー親睦活動月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2011年6月16日(木) 曇 第45回

司 会：大嶽達郎会場副委員長
齊 唱：「それでこそロータリー」「四つのテスト」
ゲ ス ト：名古屋ボストン美術館
館長 馬場駿吉さん(名古屋南RC)
米山奨学生 柴 怡さん
名古屋熱田RAC 辻 雄基さん
鈴木麻緒さん
ビ ジ タ ー：名古屋中RC 金森伸夫さん

副会長挨拶

平野哲始副会長

皆様こんにちは。今、美術界ではちょっとした若冲ブームです。先日もBSプレミアムにて4日連続で若冲の特別番組が放送されていました。伊藤若冲は江戸中期の正徳6年(1716年)に京都の青物問屋の長男として生まれました。父親の死後、家業を継いだものの、ソロバンが苦手な上に字も下手くそ、おまけに人嫌いで、経営者には向いていなかったようです。そこで40歳で弟に家督を譲り、それからは画業一筋となり、江戸の後期には人気画家の一人となりました。



時代を経て、いつの間にか忘れ去られていた彼に再び光を当てたのが、アメリカ人のコレクターであるジョー・プライス氏です。戦後まもなく、ニューヨークの古美術店で見つけた若冲の「葡萄図」に魅せられたのです。それを機に次々と作品を買い集め、さらにそれらを積極的に公開したことが人気に火を付けたのです。

以前、京都の細見美術館で見る機会があり、またテレビでも見る機会にふれておりますと、大胆な構図、精緻な描写、豊かな色彩、ユーモラスな表現・・・見る者を瞬時に虜にする作品の数々に言葉を失うほどに圧倒されます。映像や雑誌などで目にすることはありますが、実物はそれらとは比べ物にならない程の美しさと迫力がありました。

作家の伊集院静氏は「欧州美術」を訪ねる旅の最中、パリのオランジュリー美術館で教師に引率された子供達に何度か遭遇した時、初めは騒がしかった子供達がモネの「睡蓮」の前に来た途端急に黙り、たちまち目を輝かせた光景を目にしたそうです。この光景を目にした伊集院氏は、小さい頃から「本物」に触れることの大切さを実感したと言っています。

「本物」には人を黙らせる絶対的な説得力がありますが、逆もまた然りだと、この国の現状を見て、強く思います。国民不在の政界に始まり、不祥事が後を絶たない企業社会、子供を守り、しつけ、導けない学校や家庭・・・本物どころか、当然備わって然るべき資質すら持たない大人が、あらゆる世界でいかに多いことでしょう。将来を背負う若者や子供達に、こんな「偽物」ばかりを見せなければならぬ現実に、嘆息を禁じ得ません。

出席報告

亀井直人出席委員長

会員66名 出席50名 (出席計算人数52名)

出席率 82.0% 6月 9日は補填により90.2%

ニコボックス

亀井直人ニコボックス委員長

・昨日、東京でリニア新幹線の商談がまとまりました。自動車減産の穴埋めになってくれる事を期待しています。高須 洋志さん
・オンシジューム、有難う。家内が大変喜んでます。

江口 金満さん

・荘川にてなんとか2ラウンドできました。鈴木 淑久さん

・6月11日の長期ビジョン委員会の余剰金です。野崎委員長、岡村副委員長、ご苦労様でした。高木 勝さん

・本日、卓話に馬場駿吉氏を迎えて。八木沢幹夫さん

・加納さんに大変お世話になりました。6月17日地鎮祭を行えます。大島 浩嗣さん

・何となく座りましたから。先日13日の誕生日に病院スタッフからサプライズバースデーパーティーを開いてもらいました。まるで映画の様でビックリ! 松波 恒彦さん

・体調がすぐれませんが。亀井 直人さん

幹事報告

加納 裕幹事

・本日13:40より9階「ことぶきの間」にて第10回地区大会実行委員会を行います。

・6月23日(木)、4階「桜の間」にて第5回CFを行います。

卒業のご挨拶

名古屋熱田RAC:辻雄基直前会長

皆様こんにちは。名古屋熱田RACの直前会長の辻雄基です。本日は私が今期卒業しますのでご挨拶にまいりました。本日より一緒に参加している鈴木麻緒は現役ですが、是非とも見学して来期のアクト活動に繋げていきたいとお邪魔しました。私は8年間非常に楽しいアクト活動を過ごせました。一番思うことは、RACに入ったころはフリーターで、社会のことをよく分かっていませんでしたが、RACのメンバーに支えられて、社会勉強をさせていただき、RCの皆様には視野を広げさせていただいたということです。そして30歳を迎え、独立して仕事を始めます。今日は貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。またよろしく願いいたします。



委員会・同好会報告

クラブ広報委員会:梅村昌孝委員長

本日発行する予定でした第1507回例会のウィークリーの発行が遅れております。急遽、修正が入りまして間に合いませんでした。申し訳ございませんが、よろしくお願いたします。

卓話者紹介

八木沢幹夫さん

本日卓話をお願いしている馬場駿吉さんは耳鼻科の先生で、私も同じ耳鼻科をやっていたので、学会などでお会いすることもありました。小耳症という先天性奇形の手術に関しては、この中部地区の第一人者で、私もその手術を見させていただきましたが、無いものを作るという創造的なことで大変だと思いました。名古屋市立大学医学部の耳鼻科の教授をされていた1985年に名古屋南RCへ入会されました。米山奨学の委員長、2000～2001年度の副会長、2003～2004年度の会長エレクト、2004～2005年度の会長を務められました。現在は名古屋ポストン美術館の館長をされており、先程お話ししましたら給料はほとんど無報酬に近いと仰っていました。館長をされてもう4年になりますが、なかなか大変なようです。一昨年、千種RCで『名古屋ポストン美術館の現状』というテーマで卓話をされており、本日の卓話はその第2弾となります。名古屋ポストン美術館を無くすわけにはいきませんので、宣伝も兼ねて卓話をお願いする運びとなりました。それではよろしくお願いたします。

卓話

名古屋ポストン美術館館長 馬場駿吉さん

名古屋ポストン美術館の使命

皆様こんにちは。昔から文化的なものへの憧れがありましたので、退官後は是非そちらの方へ残りの人生を捧げたいと思っていました。ちょうどポジションをいただけたので名古屋市美術館へ3年ほど務めた後、今度は名古屋ポストン美術館から館長としてお誘いをいただきまして、もう5年近く館長を務めております。



名古屋ポストン美術館は一時期、存続ができるのだろうかという心配も新聞などで騒がれました。名古屋市内だけでもたくさんの美術館があるなかで、我々はどのように特徴を出すかというのがこれからの美術館には大事なことだと思います。

名古屋ポストン美術館は1999年4月17日に開館しました。私どもの運営母体は財団法人ですが、今年の4月より公益財団法人に認定され、『公益財団法人名古屋国際芸術文化交流財団』という名になりました。半官半民で税金を使っていますので、県民市民の思いにきちんと添って、皆様のためにやっていかなくてはならないと思っています。

アメリカのポストン美術館とはこれからも姉妹館として密接に連絡を取ろうと話しています。10周年の時に協定を見直していただきまして、今は我々に有利な条件で運営することができています。通常は美術館では収蔵品としてそれぞれのコレクションを持っているのですが、私どもは一切ございません。我々の展覧会はアメリカのポストン美術館の所蔵品を頼りにしているため、その所蔵品の調査・研究が重要な使命となります。ポストン美術館は世界的にも素晴らしい所蔵品を持っており、世界各国の美術館から作品の貸与の希望が来ますので、だいたい2～3年前から企画・相談をし、早めに連絡しないとこちらが希望する作品が来ないという事が起こります。

展覧会の企画構成は学芸員達と一体となり、常に名古屋ポストン美術館でやるべき企画という視点を持って行っております。最初は館長室がございましたが、学芸員が考えていることにすぐさま対応できるように私のデスクは学芸部に入れてもらいました。館長室を廃止し、なんでもすぐに相談できるようにしたお陰で学芸員が何を考えているのかよく分かるようになりました。

美術品は大変に貴重なものですので、展覧会に来ている間の安全な保存や管理が大切です。光と温度と湿度を一定にするように厳密な規定がございますので、それに沿った記録を提出しなければなりません。温度はだいたい24～25度に設定し、夏だと寒いと言われるくらいの温度になります。

ポストン美術館の所蔵品で展覧会をする時でも、時に国内にある作品を入れる場合もあります。一昨年の10周年の時に開催した「ゴーギャン展」では今までほとんどポストン美術館から出たことがないと言われる名作がやってまいりました。目玉となる作品がくるならば国内にあるゴーギャンの作品もお借りして同時に展示したいと思い、他の美術館とやりとりをしました。通常はお互いに所蔵している作品を貸し借りするのですが、名古屋ポストン美術館は所蔵品を持っていないので、借りるためのやりとりは色々大変です。最近は他の美術館との交流も盛んになり、お借りしたいものも親切にお貸しいただけるようになりました。

名古屋ポストン美術館は4階と5階がギャラリーになっています。4階はこれからもポストン美術館から来る名作を常に展示することになりますが、5階のギャラリーは契約が変わり自由に企画を入れることができるようになりましたので、4階の展示に関連づけて、同時代や関係のある作家の作品を展示したいと考えております。5階のギャラリーでは現在活躍する美術作家の活動状況をご紹介します、特にこの地域の作家さんの作品の展示・紹介をするのも重要な役割だと思います。副会長さんの話にもありましたが、教育普及活動は重要だと思います。展覧会に合わせ、一緒に絵の鑑賞をしたり、絵を描いたり、折り紙をするなど、子供さん達に向けた色々なイベントを積極的に行っております。

企画検討委員会を作り、地元の方々は何を見たいと仰っているのかちゃんとポストン美術館へ届けるシステムを作りました。市民代表2人や美術に関心を持つ有識者の方も含めた委員会となっております。この委員会の時にはポストン美術館からも参加があり、生の意見を聞いていただいております。

障害者の鑑賞をサポートする「三菱商事アートシップ」という取り組みがございます。展覧会会期中の定休日(月曜日)に開館して、障害者の方々に無料で公開しています。教育普及への活動の取り組みとしては、愛知県下の大学生・高校生に向けて、大学にお願いして少し費用をご負担いただき、学生達はフリーで入れるようにする活動を行い、現在は38校参加していただいております。その他メンバーシップというものがあり、現在の会員数は3000人ほどです。それによってリピーターが増えればいいと思っています。愛知県立芸術大学とアメリカのポストン美術館附属の芸術大学で交流をしたいということで、私どもの美術館が仲介させていただきました。3月に先方の学長にお願いいただき、愛知県立芸術大学との国際交流の締結をさせていただきました。

従来通りにポストン美術館のすぐれたコレクションを紹介することは名古屋ポストン美術館の使命です。そして5階のギャラリーは我々で自主運営できるようになり、この地域の密度を高める努力をしていきたいと思っています。メンバーシップの制度を皆様に広めて、会員になっていただき、観客層を広げ、特に若い観客を増やしていきたいです。大学との連携で若い学生さんも来てくれるようになり、賑やかになってきました。皆様に親しまれるような美術館でいられることが一番の念願でございます。

例会のご案内

■今週の行事 6月23日(木) 第5回クラブフォーラム

場 所:ヒルトン名古屋4階「桜の間」

■次週の行事 6月30日(木) 下期納会

場 所:「THE KAWABUN NAGOYA」

時 間:18:00～20:00

■次々週卓話 7月7日(木)

会員卓話:高須洋志さん

テ マ:会長挨拶